

令和 2 年 5 月 11 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02432

研究課題名(和文) 東海地域近世・近代能楽資料の収集・整理とアーカイブ化

研究課題名(英文) Collection and digitalization the materials of Noh performance held in the Tokai district for building the "archives".

研究代表者

飯塚 恵理人 (Iizuka, Erito)

椋山女学園大学・文化情報学部・教授

研究者番号：00232132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：豊橋魚町能楽会所蔵の狂言六義(=台本)を調査して松囃子の曲で豊橋の旦那衆は早川幸八の弟子の系統と思われるが複数の伝本が確認され、幕末には商家の趣味として和泉流の狂言が盛んに行われていたことを確認した。研究室に寄贈を受けた謡曲SPレコードを整理・デジタル化して電気吹込の観世左近の謡本付謡曲独吟レコードが観世流の現在の謡方の規範的な節回し・発音であり、このレコードによって全国の弟子が稽古したことによって観世流の謡い方の地方色が薄れ、宗家の歌い方に統一されていったと推測される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

能楽は武家の式楽という面から幕府や藩の公的な催しやお抱え能楽師については研究が進んでいるが地方の能楽の研究は立ち遅れている。本研究は豊橋魚町能楽会に所蔵されていた資料から江戸時代後期には豊橋の素封家に尾張藩御役者に習い狂言が広まっていたことを明らかにしたことに学術的価値がある。また能楽は室町から変わらないイメージがあるがレコードと放送により家元の謡い方に統一された点を明らかにした点に特色がある

研究成果の概要(英文)：We investigated about the Kyogen Rikugi (=scripts of Kyogen) possessed Toyohashi Uomachi Nougaku-kai, and found several variant texts of "Matsubayashi". In the late Tokugawa period, "Danna-syu" (=wealthy merchants) lived in Toyohashi flourishingly performed Kyogen of the Kohachi Hayakawa's system on the Izumi-ryu (=Izumi school). They did it with a their becoming hobby. The SP records of Youkyoku (=songs of Noh performance) donated to our laboratory were organized and digitized. Sakon Kanze (the 24th master of Kanze school) made many packages of Utai (=Youkyoku's text) books and SP records electric-recorded his solo chants. The way of melody and pronunciation in these chants became the standard way of the present Kanze school. It was presumed that the local color in the chanting of the Kanze school faded, and it was unified to the chant way of the Sou-ke (=the master of school) because apprentices living in all over Japan practiced their songs using these records.

研究分野：日本文学中世

キーワード：日本文学 東海地域 能楽 レコード 放送 アーカイブ 素封家 式楽

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

申請した2017年は能楽学会のフォーラムにおいて

「第1部【基調報告】「新収蔵生田本」について 関屋俊彦氏(関西大学教授)

第2部【この人に聞く】生田秀・耕一について 生田秀昭氏(鼓筒研究家)聞き手 関屋俊彦氏 近代の関西能楽界と大西家 大西智久氏(観世流シテ方) 聞き手 大谷節子氏(成城大学教授)」が催されるなど地方能楽史が注目され研究の進んだ俊だった。明治時代から大正時代の能楽界の担い手、特に近世には奢侈禁令のために能楽界の表に現れることがなかった地方の豪農や素封家が素人数寄者として能舞台を立てたり能楽師に装束を作って渡すなどの後援活動をしており、アサヒビール創業家の生田家も明治大正を通じて能楽の大パトロンでありその資料を関西大学が一括購入して整理されたことから明治期から戦前にかけての関西能楽界の研究が飛躍的に進んだ。生田家資料から戦前の生田秀・耕一がシテ方だけでなく小鼓方の大パトロンであったことも知られ、大西閑雪の録音から明治期まではシテ方に合わせて囃子方が打っていたが徐々に囃子に合うようにシテ方が合わせて謡うことも大西家所蔵のレコードのデジタル化などから徐々に明らかになりつつあった。本研究は関西での上記研究をふまえ、近世から現在までの東海地域の特に民間の能楽の催し番組や伝書、明治期以降の録音や舞台写真などの資料をアーカイブして東海地域の近世・近代の民間の能の歴史を資料から明らかにする。

2. 研究の目的

本研究は関西の研究者が関西大学生田コレクションで進めている地方能楽史研究に呼応し、1800年代から現在に至る東海地域の民間の能の歴史を資料に基づき明らかにすることと、それらの資料を整理して広く利用することを可能にするアーカイブ構築を目的とする。本研究の対象とする資料は尾張藩御役者や祭礼能に出勤・もしくは寄付等で支えた御用商人の商人の子孫の方々の家に伝来する番組・伝書・古写真等の資料、明治以降現在に至る謡曲のSPレコード等の録音、昭和から現在に至るフィルムやビデオ等の映像資料となる。

3. 研究の方法

2017-2019年に東海地域で行われた能楽の催しの番組を収集・整理してテータ入力を行い、東海能楽番組データベースより配信する。番組の収集・整理は済んでいるが昭和期のデータベース未収録番組と番組画像が予想以上に集まったためその入力とデータベースこうしんを優先せざるを得なかったため入力には出来ていない。

能楽写真家杉浦賢二氏が1984-2007年までフィルムカメラで撮影された熱田神宮能楽殿を中心として津新能など東海地域の能楽催しを撮影されたフィルムを撮影された年次ごとに整理してデジタル化する本研究では研究期間の三年間で1995-97年のフィルム450本のデジタル化を予定し、予定通り三年間分のデジタル化を行うことが出来た。すでに2020年現在で20年以上前に当り、能楽師の代替りが進んでいる。名古屋能楽堂建設運動が進んでいた時期の催しの写真で今は亡き観世流シテ方泉嘉夫師・梅田邦久師や大倉流大鼓方寛一師、和泉流狂言方先代井上松次郎師の貴重な写真を多く含んでいる。杉浦氏の許可を得て名古屋能楽堂にデータ提供し、現在名古屋能楽堂の展示や名古屋能楽堂定例公演のチラシ写真などに使われている。

4. 研究成果

2017年秋の能楽フォーラムではアサヒビール創業家の生田家と能の関わりが関西大学新収蔵資料により明らかになって明治維新を期に奢侈禁令がなくなって地方の素封家が能・狂言の表舞台に出ることは名古屋では狂言共同社の初代井上菊次郎が知られていたが本助成金によって豊橋魚町能楽会の資料を調査・撮影させていただいたことによって、豊橋魚町の藩の御用商人たちが既に幕末から尾張藩の御役者の早川幸八など複数の狂言方を招いて稽古していたことを明らかにすることが出来た。狂言の演目も尾張藩の催しではなされない松囃子を町衆のみで行うことや新城の富永神社の狂言に参加したり、また新城から奉納狂言の人が魚町に来演するなど東海地域の名古屋以外の地方都市でも幕末に潜在的に御用商人たちが狂言の稽古や祭礼奉納をしていたことを明らかにできたことで能楽学会が進める地方能楽史の研究と能楽資料のアーカイブを東海地域で行っている点に位置づけられる。学界に対するインパクトとしては名古屋のような御役者が雇用されている大藩ではない豊橋や新城において素封家が謡曲よりむしろ狂言を熱心に稽古していることや素封家同士の狂言を媒介にした交流が見られること、藩の催しでは行われない演目だが商家の祝言にふさわしい松囃子などの演目がすでに奢侈禁令の出ている幕末から稽古され、祭礼能などでは行われていたことが挙げられる。

・本研究のSPレコードのデジタル化によつて、明治維新によって素封家が能楽の愛好者として表に出てくると同時に、大正から昭和期にspレコードとラジオ放送によって財産は持たないが大卒などの高学歴によって高給を取る医師や銀行員などの知識人階級が新しい能楽愛好者になって行くことが愛知県においても確認された。知識人階級が大正末年まで、謡曲(能を舞わずに座って謡うこと)・箏曲は中流階級以上の上品な趣味、清元・新内・常盤津・落語などは肉体労働者や遊里の芸妓などの趣味というように、属する「階級」と愛好する「芸」が密接に結びつき、

両者の間には大きな格差があった。これは、例えばこの頃までは、能は能楽堂の桝席を1年間キープする年会費制であったため入場料が高額だった、落語の寄席は下町に多く上流階級の人間が行くにははばかられたというように、「芸」に「入場料」と「場所」の制約があるためであった。

清元・新内・長唄などが、下等社会のものと考えられていたことについては、『名古屋芸能史(後編)』(名古屋市教育委員会発行、昭和46年12月、74頁)所収の初代杵屋三太郎(昭和2年10月26日没)手記に、「(江戸時代の音曲は)君子学者などは顧るものもなく、唯女子の遊芸として、おもに下等社会に行はれしかば、折角楽器もふしも手も此上なき結構なるものが、哥の為に貴人や学者の前へ八持ち出されぬ程に、悪くなりたり。」とある。長唄が貴人の前で演奏されないのは「哥」(歌詞)によるとし、さらに「其上とかくいやすく淫奔なる哥多くして、音曲が悪くなりぬいたといふべし。」と、卑猥な歌詞が多かったと述べている。能楽学会が進める近代の能楽研究の愛知県に関する部分に位置されるがインパクトとしては長唄の杵屋三太郎が階級としては十分に満足できる収入を得ながら嗣子の小島鉄次郎には長唄を継がせず、小島鉄次郎が能楽笛方として活躍したことなどは芸どころ名古屋の特徴を全国に知らせる上で意味があったと思う。

思っても見なかったのは長唄の家元が自ら嗣子を長唄演奏家にさせなかったことで、ご遺族の協力をいただいて小島家資料を用いて藤田流小島鉄次郎の歩みについて明らかに出来たのは近代能楽史における趣味とステータスの関係についても明らかに出来、近代能楽史にインパクトを与えることが出来たと思う。

・今後の課題としては豊橋魚町能楽会・新城能楽社中の所蔵資料が想定より多く、まだ撮影と整理が終えられなかったのでそれを継続したい。また本調査中に新城能楽社中と伊勢猿樂勝田流との交流資料も見つけることが出来たので伊勢の通能や一色能・鳥羽市賀多神社祭礼と素封家との関係なども調べてみたい、いずれも地元の能楽保存会の方を新城で紹介していただくことが出来たので次年度科学研究費を申請して行わせていただきたいと願っている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 村上正樹 飯塚恵理人	4. 巻 第73巻第1号
2. 論文標題 名古屋における「テレビドラマ草創期」の基礎的研究～中部日本放送 テレビ演出家・山東迪彦の仕事～補遺	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 郷土文化	6. 最初と最後の頁 65-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯塚恵理人	4. 巻 第43号
2. 論文標題 間狂言及びワキの狂言応答詞章から見る《雲林院》の骨格	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 紫明	6. 最初と最後の頁 69-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上正樹 飯塚恵理人	4. 巻 第28号
2. 論文標題 名古屋における「テレビドラマ草創期」の基礎的研究～中部日本放送 テレビ演出家・大脇明の仕事～補遺	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋芸能文化	6. 最初と最後の頁 142-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ウィリアムベトルシャック・飯塚恵理人	4. 巻 第28号
2. 論文標題 英語圏留学生向け狂言鑑賞教材の作成 「六地藏」を素材に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋芸能文化	6. 最初と最後の頁 P.166-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯塚恵理人・脇田泰子	4. 巻 第18巻
2. 論文標題 テレビ草創期の番組から見た日本らしさの象徴と文化の表現に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 椋山女学園大学文化情報学部紀要	6. 最初と最後の頁 P.19-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯塚恵理人	4. 巻 第23号
2. 論文標題 《資料紹介》熱田猿樂大岡宮福太夫の勳進活動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東海能楽研究会年報	6. 最初と最後の頁 P.10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯塚恵理人	4. 巻 48
2. 論文標題 佐藤友彦師所蔵 九冊本間狂言「詠之類」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 椋山女学園大学「椋山女学園大学研究論集」第48号 人文科学編	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村上正樹 飯塚恵理人	4. 巻 72-1
2. 論文標題 愛知県における『テレビドラマ草創期』の基礎的研究～中部日本放送 テレビ演出家・大脇明の仕事～	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 「郷土文化」	6. 最初と最後の頁 85-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上正樹 飯塚恵理人	4. 巻 27
2. 論文標題 名古屋における「テレビドラマ草創期」の基礎的研究～中部日本放送 テレビ演出家・山東迪彦の仕事～	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 名古屋芸能文化	6. 最初と最後の頁 133-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯塚恵理人	4. 巻 41
2. 論文標題 《誓願寺》試解 間狂言のバリエーション	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 紫明	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊康 飯塚恵理人	4. 巻 11
2. 論文標題 能楽囃子の義務教育課程音楽課程での単元化のための教材試作 《松風》破之舞の楽譜化と分析から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 「椋山女学園大学教育学部紀要」	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 飯塚恵理人
2. 発表標題 辰巳家所蔵「脇直伝仕方附」について
3. 学会等名 芸能史研究会4月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯塚恵理人
2. 発表標題 辰巳家所蔵「脇直伝仕方附」について
3. 学会等名 六麓会12月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 飯塚恵理人
2. 発表標題 辰巳家所蔵「脇直伝仕方附」について
3. 学会等名 芸能史研究会4月例会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

恵理人の小屋 https://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/~izuka/erito1/ 恵理人の小屋 http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/~izuka/erito1/newpage1.htm

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三木 邦弘 (miki kunihiro) (80174001)	椋山女子大学・現代マネジメント学部・准教授 (33906)	